

神戈陵を渡る風2

令和4年度 川辺高校 校長通信 第087号(通算)

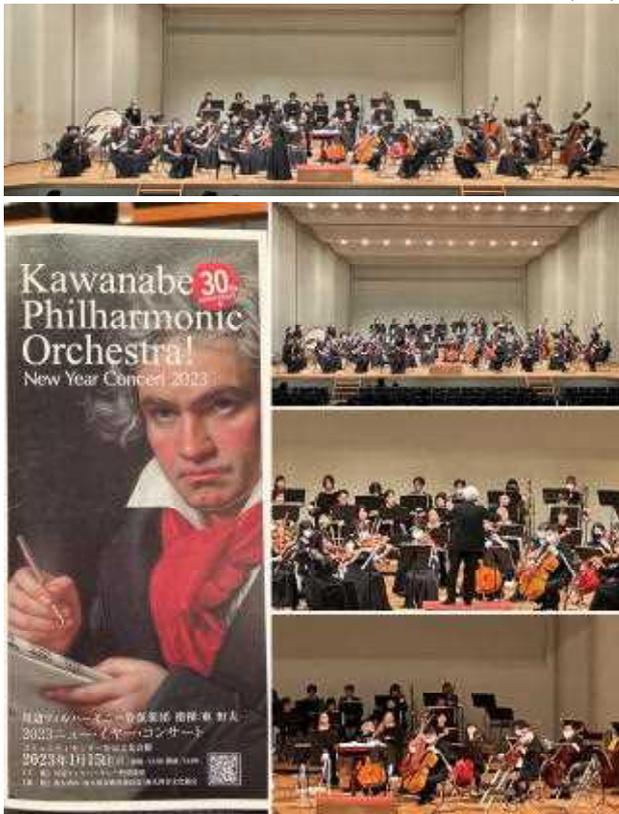
令和5年1月27日(金)発行

1月も残り4日。3年生向けにこの校長通信『神戈陵を渡る風2』を配布できる回数も、あと5回ほどとなり、ちょうど第090号を過ぎたあたりが3年生に対する最終号となりそうです。学校内の様々な話題や、地域貢献やボランティアなどにおける皆さんの活動紹介、校長としての思いや私の趣味(音楽や数学、散策など)に関する話題など、2年間にわたって校長通信として綴ってきました。これまで読んでもらった、3年生は、どの様に感じていたのでしょうか？ 少しは、面白く感じてもらえましたか？ 1・2年生向けには、まだまだ続けていきます。楽しんでもらえれば幸いです。

皆さんは、川辺高校に管弦楽団(オーケストラ部)があったことを知っていますか？ なんと、オーケストラ部は昭和25年に創部されました。当時の音楽の先生だった種子田孝蔵先生(現川辺高校の校歌の作曲者)のご指導により全国的にも珍しい活動が川辺でスタートしました。今では、音楽部吹奏楽団として、この活動は継続されています。”音楽の街かわなべ”と呼ばれる由縁だと思います。川辺フィルハーモニー管弦楽団は、この部の出身者により結成され、創立30周年を迎えました。

川辺フィルハーモニー管弦楽団 2023ニューイヤーコンサート

令和5年1月15日(日)



小論文講演会

令和5年1月18日(水)

尚学舎で3・4限目には3年生、5限目は1年生、6限目は2年生に向けた学年別の小論文講演会が実施されました。第一学習社の講師である田中潤一先生からは、ポイントを絞って小論文の書き方を基本から本番に向けた応用まで学びました。これからの社会において、自分の考えを論理的に正確に伝えられることが大変重要になります。この小論文講演会では、高校での学びが将来役立つことも知ることができたと思います。今回学んだことを高校生活やその後の将来の活動において実践して欲しいと思います。



講義中の様子



南薩線の歴史



← 薩摩湖周辺の松林のなかを走る赤い列車

皆さんは、この列車が何だか知っていますか？
丸い顔立ちがかわいい列車です。
これは、

鹿児島唯一の私鉄だった南薩線の列車です。

かつて鹿児島県には、鹿児島交通・南薩(なんざつ)線、万世線、知覧線が私鉄として存在していました。1912(明治45)年7月に、南薩鉄道は設立されましたが、1932(昭和37)年1月に万世線、1964(昭和40)年の11月には知覧線が廃止になり、全線が廃止されたのは、1984(昭和59)年3月のことでした。それまでは、鹿児島県内唯一の私鉄として活躍していました。赤色の気動車が地域の移動手段として、人々は親しみを込めて「南鉄(なんてつ)」と呼んでいました。枕崎線は、伊集院駅から枕崎駅までの49.6kmを23の駅で結んでおり、支線の万世線は2駅のみ、知覧線は阿多～知覧駅間の16.3kmを11の駅で結んでいました。

川辺高校のすぐ近くには、知覧線の薩摩川辺駅があり、今でも大きな石蔵が2棟残っています。加世田や知覧方面から川辺高校に通学する生徒がたくさんいて、現在の正門がまだ裏門だった頃から利用されていたそうです。



南薩線の全盛期には、伊集院駅から国鉄(現・JR鹿児島線)に乗り入れ、西鹿児島(現・鹿児島中央)駅まで2両連結による直通列車が走っていました。私も、廃止される前に南薩線に乗ろうと思い立ち、大学3年生の春に友人たちと薩摩半島を一周する列車の旅(一泊

二日)に出て乗車しました。今となっては懐かしい思い出です。教員として最初の赴任地が薩摩湖のすぐ近くにある吹上高校だったことには、大変驚き、不思議な縁を感じました。新任当時は、レールこそもう無くなっていましたが、いたるところに列車が走っていたころの面影が残っていました。全線路図を見ると、知覧線の旧川辺町内には田部田、薩摩川辺、野崎、東川辺、小野の5つの駅があったようです。

▶ 南薩線・万世線・知覧線の全路線図

